

美作大学附属幼稚園 親塾公開講座

「**2**」世紀を生きる子どもたちへ
～子どもとともにある大人の在り方～」

美作大学 藪田 弘美

21世紀型教育とは・・・



2030学びの羅針盤（OECD）

- AI時代に突入し、2030年VUCA（複雑で予測不可能）時代を生きる子ども達

→自律的・主体的（agency）に行動する力が必要。

→問題を発見し、知識や技術を活用して多様な人と一緒に解決する力が必要。

つまり・・・これまでの暗記型の知識は生きてこなくなる。子どもが環境に働きかけて試行錯誤をすることによって深い学びを得る教育に変わろうとしている。



非認知能力＝社会情動的スキルの育成が世界的な注目となっている。

非認知能力（社会情動的スキル）育ての土台は？

- 乳幼児期の例えば自己肯定感＝ありのままの自分が十分に愛されていると感じるところで育っていく根源的な感覚がその伸長の基礎といわれている。

☞ アタッチメント、基本的信頼感なども同じです。

つまり・・・自分が愛されている、大事にされている、ありのまま
でいいんだという感覚が、根源的な自己信頼を生み出します。その
自信があれば、我慢や発想転換（非認知能力）が育つのです。

始まりは親子の愛着関係から
～人信じて、自分を信じて～

- 無条件に充分に永遠に愛されるという実感を基盤に母親との間で育まれた愛着が人と自分を信じる基本的信頼感を育てます。。

☞根拠のない自信が重要。

つまり・・・人間は基本的なところで、人と自分を信じて社会で生きていく。当たり前のように人と自分を信じる。

☞根拠のある自信は不要。

つまり、非認知能力育成・・・
乳幼児期の子育てがキーポイント

- 世界的に、非認知能力の育成の大事さが認められてきていて、
その基本がこの時期に育つことが理解されてきていること。

非認知能力を育てるとは・・・

- **OECDの非認知能力の定義を踏まえて**

- ↳ 興味や関心を持つだけでなく、広げ深めること

- ↳ 困難にあっても目標向かいやり遂げようとする気持ち（自己調整力・粘り強さ）を育むこと。

- ↳ 自分の思いを言葉で伝えれるように。

- ↳ 自分についての肯定的なイメージ（自信・楽観性）をもてるようにすること。

具体的には・・・

- 非認知能力は、与えられた目標ではなく、子ども自身が主体的に目指してみたいと思える遊び（子どものやりたいことは、日々の生活や豊かな環境の中で体験されることから生まれる）から育つ。心からやりたいことに没頭する中で、試行錯誤し挑戦することができる遊びが必要。

つまり・・・**遊びに没頭できる環境が必要不可欠**

そして、世界的に・・・

自然を生かした保育・幼児教育の潮流

- ジェームズ・J・ヘックマン

「ペリー就学前プロジェクト」社会実験（1962～1967）

→幼児教育に培った「非認知能力」は一生のベースとして築かれ、その後の人生に大きな影響を与えることが明らかになった。

- そして、この「非認知能力」を育む有効な方法の一つとして「自然体験」が注目されている。
- 「非認知能力」は遊びの中で育まれる。

乳幼児期における 自然体験（原体験）の意義

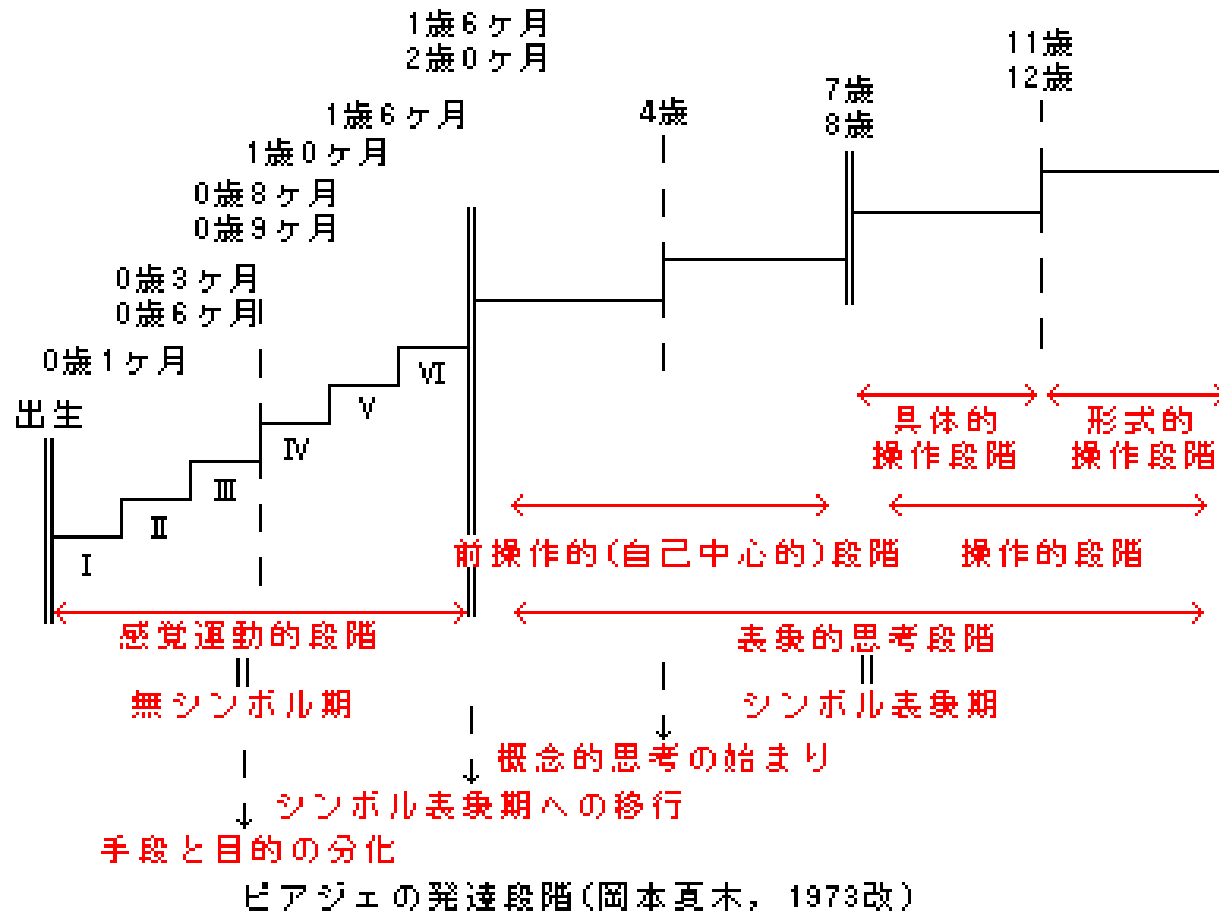


なぜ

乳幼児期の子どもを取り巻く環境は大切なのか？

- 人間と環境とは相互に交流し合い、相互に浸透し合うものである。
→人間と環境は相互依存な関係
- 特に乳幼児期の子どもは自我が未形成であるために、環境によって容易に行動を引き出す。
- 乳幼児期の子どもにとって、身体・五感をつかって直接環境に働きかける遊びは重要。

➤ そもそも・・・ピアジェの認知機能の発達段階



ピアジェの理論:発達段階

下記のように知識の発達に段階があるとされ、4つの段階に分類される。
ピアジェは、段階に合わせた教育が必要と考えた。

| 年齢 (目安) | 段階 | 性質 |
|------------|--------|---|
| 0～2 | 感覚運動期 | 感覚(見る、聴く、触るなど)と運動(つかむ、つまむ、噛むなど)によって外界を把握、認識する段階 |
| 2～6 | 前操作期 | 外界の認識が感覚と運動(活動)から操作へ発達していく過渡期 |
| 7～11 | 具体的操作期 | 具体的に理解できる物事については論理的に考えることができるようになる時期 |
| 11～ | 形式的操作期 | 具体的な物事にとらわれず、抽象的に考えることができるようになる時期 |

<http://www.chiikunote.com/entry/genetic-epistemology> より抜粋

この年代では抽象的な考え方は難しく、具体的な体験を伴った教育が必要

しかし、現代の子どもたちは・・・
(問題点)

直接体験の不足

その要因

- ①遊び場がない（自然が失われ空き地がない）
- ②携帯ゲーム、パソコンゲームが遊びの主流



子どもの健全な成長を阻害

本題に戻って
自然にかかわる力はなぜ必要？



自然物と人工物の違い

自然物

- 同じものが一つもない
- 時間とともに変化する
- 意味が規定されていない
- 正しい遊び方、使い方がない
- 捨ててもゴミにならない



遊びこみやすい

人工物

- 規格化されている
- 変化しない
- 意味が規定されている
- 正しい遊び方、使い方が決まっている
- 使ったらゴミになる



遊びこみにくい

直接体験（原体験）の 必要性・重要性

非認知能力の育成になる（21世紀型教育のキーワード）

（具体的には）

五感で触れ合う自然の中での遊び、触れ合いを通じて思考力、判断力、表現力等が育成される。

自然は子どもたちの最良の教師・・・by ルソー

(補足)

子どもたちの感性は
どのように育まれるか？

- ① 色々なものに出会う
- ② 興味・好奇心がわく
- ③ 五感で体験
- ④ 心が動く



感性（五感を研ぎ澄ますことで感性が豊かになる）

参考文献

感じることは知ることの何倍も大切



実践から・・・

非認知能力を考えてみましょう

科学の芽を育む

小豆はできるのかな？







カエルってかわいいな～

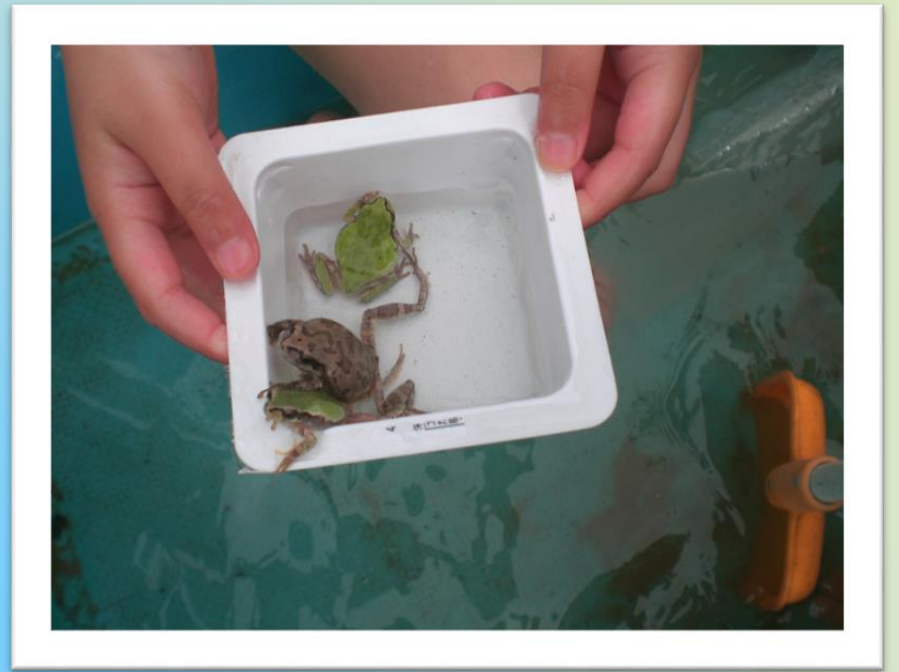
あっ！
おたまじゃくし
みつけ！
(意欲・感動)



何で色が違う
だろう？(疑問)

トヨを持ってき
て歩かせよう！
(提案)
(意欲・期待)





緑はアマガエルで茶色は
土ガエルだって。それで
色が違うだん！（発見）
（興味・関心）

子どもの学びとは・・・

遊び ⇒ 仮説 ⇒ 議論 ⇒ 検証 ⇒ 学び

※幼児教育は、小学校の基礎作りではなく土台作りである。

※3つの資質・能力の重視。

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」で振り返る。

木工あそび

真剣そのもの



1歳児

お散歩

春



夏



秋



冬

たけのこ見つけた



川遊び

牛の乳搾り体験



へびパンり体験



大人の関わり方は・・・

- 子どもの思いを大切に

瞬間瞬間に何を育てたいか考える。

- 現実の社会の中で生き生きと生活できるよう・・・

ワクワク感、ドキドキ感、この世に生きる楽しさを
体験させていく。

子ども理解の困難

「大人が大人がるゆえに子どもが見えにくくなっている」

その理由は・・・

- ①大人は、自分の子どもの頃のことを忘れてしまう。
- ②大人が子どもであったころと、今の子どもが置かれている社会状況は大きく異なっている。
- ③大人は自分の体験を絶対視する。
- ④「今の子どもは、私たちのころに比べて・・・」という言い方になる。

子ども理解の面白さ

- ①子どもの思いや育ちを理解することから始める。
- ②子どもと一緒に心と体を動かす（共感する・感動する）

例えば・・・

・子どもは哲学書と言われるように、容易には答えられない本質的な問いを投げかける。

「人は死んだらどうなる？」 「赤いクレヨンを埋めたら赤い花が咲く？」



- ～「驚く心」より一部抜粋
- ～「教育される教育者」より一部抜粋
- ～「ひきつけられて」より抜粋

お母さんも一緒に大きくなあれ！

「**50**の文字を覚えるより、**100**の何だろを育てよう」

- 自分からやろうとしなければ自分の力になりません。大人も子どもも、自分が関心を持ったことは、あっという間に修得します。文字は子どもの関心の網目にたまたま引っかかっただけです。肝心なのは文字が書けるかどうかではなく、文字で表現したくなるような「**内面の育ち**」があるかどうかということです。

つまり・・・想像的な想像力を育むことが乳幼児期の発達課題

5つの提言

- 子どもの寄り添い、子どもの安全基地になること。
- その子自身の進歩を認め、ほめること。

3つのH「ほめる」「はげます」「（視野）を広げる」

- 生き字引のように余すことなく定義や解答を与えないこと。
- 禁止や命令でなく提案すること。
- 子ども自身が考え判断する余地を残すこと。

まとめ 1

- 子どもがどんなところにつまずいているのか、どこに疑問を感じて進めないのか**洞察**する。
- 子どもが迷っている点が見つかれば、**足場**をかけて一步踏み出せるようにする。
- 子どもが自分で答えを出すまで、焦らずじっくり待ち、子ども**心の声**をしっかりと聴く。

まとめ2

- 子どもといらる**今の時間**を楽しみましょう！
- 我が子と**一緒に**父親・母親も大きくなりましょう！
- 子どもと**同じ目線**に立ってみましょう！

大人の
関わり

あるがままを受けとめる
信じる・待つ・見守る

自分に自信をもって
主体的に生きる

森で育む
生きる力

幼児期の今

根づくり

心の基礎づくり

個に寄り添う
思いの共感者
「やってみたい！」を
満たす

社会性

自己肯定感

自己表現力

創造力

豊かな感性

人と関わる力

お わ り に

生きる力を育む

大人が変われば子どもも変わる

ご清聴ありがとうございました

